

まち歴の記録

No.02

配信日：2025/03/31

最終更新日：2025/04/22

編集発行：町田市立自由民権資料館

問合せ：

〒195-0063 東京都町田市野津田町 897

TEL 042-734-4508 FAX 042-734-4546

明治時代の地域経済の歴史を学ぶ3つの講座

2024年度企画関連講座を開催いたしました

当館では、2024年度の企画展「回セ！地域経済—江戸・明治の町田の金融史—」にあわせ、「明治時代の地域経済の歴史」を学ぶ3つの関連講座を開催しました。今回の「まち歴の記録」では、その第1弾（「まち歴」第5回）でご講演いただいた棚井先生に、当日のお話のエッセンスをご執筆いただきました。



2024年度 まちだ歴史講座「まち歴」

開催日：2024/10/20

第5回

明治時代の地域の銀行

棚井 仁

和光大学経済経営学部専任講師

この報告では、明治時代、とくに明治前期を対象に、町田地域に存在した銀行について、武相銀行を事例に紹介しました。ここでは、銀行経営という観点からその特徴を素描していきます。

1 武相銀行の設立と展開

武相銀行は明治15年5月に設立されます（本店・南多摩郡相原村，出張所・原町田および久保沢）。創業当時（明治16年上期・第2期）の株主構成を見ると、当該地域の豪農で、近世期から質屋を兼営していた青木勘次郎を中心に青木家関係者が多くを占めるほか、地理的には相原村に多く分布しています。

図1によると、運用している資金の多くの部分を資本金（株主が出資した資金）が占めていることがわかります。この時代にははまだ預金市場が形成されておらず、銀行は資本金を貸し出すのが一般的でした。

さらに、図2によって貸出方法を見ると、前半期（第1期～第7期）と後半期（第8期～）で大きく変化しています。前半期は「不動産抵当貸」が高い比率を占めるのに対し、後半期は「取立手形」の比率が上昇しています。言い換えれば、前半期は不動



棚井仁講師



当日の講座の様子

産（その多くは農地）を担保に資金を貸し出していたのに対し、後半期になるとその不動産を担保とした貸出を減らす一方で、手形割引による貸出を増やしていたことがうかがえます。

概して、この時期の武相銀行は、預金はほとんど吸収できておらず、資金を貸出金として運用していたこと、その貸出金は、前半期にあつては土地を担保としていたのに対し、後半期には手形割引による貸出へと変化したことが分かります。

2 本店の移転と営業内容の変化

明治 17 年、武相銀行は本店を八王子駅前に移転します。そこには、どのような理由があったのでしょうか。『実際報告書（5 期）』には、「負債党ノ気炎少々静穏ニ復シタルヲ以テ、臨時株主総会ヲ開キ、将来ノ方法進路ヲ議シタルニ、本店ヲ八王子駅ニ移シ、営業ノ目的ヲ一変セントノ決議ニヨリ十一月初旬ヨリ実行シ業務漸ク緒ニ就（5 期）」いたと記されています。

明治 17 年 7 月、八王子・原町田地域で最初の困民党大衆行動が起き、武相銀行もその対象となりました。史料からは、困民党事件を受けて、本店を八王子駅に移し、「営業ノ目的」を「一変」したことがわかります。八王子という地域の特性を考慮すれば、営業目的の一変とは、従来の相原村での土地を担保とする農業金融から織物業を中心とする商業金融への転進が企図されていたと推測されます。

武相銀行がいつまで営業していたのかは分かっていません。史料によって確認し得るのは第 16 期（明治 23 年上期）までです。『実際報告書（16 期）』は、八王子駅前に移転したことをきっかけに、手形割引による貸出が伸長しており、そこに商機を見出したことを述べています。

「本季中ノ利益ヲ類別セハ、手形割引第一二位シ、不動産動産貸之二次、是二由テ之ヲ観ルモ手形割引ヲナス八商家ノ信用ヲ厚シ、商業ヲ円滑ナラシムル媒助トナリ、又商機ヲ失セザル利益アリ、従テ銀行者モ利益ヲ得ヘシ、之レ本行ノ将来ニ望ヲ嘱シ、以テ此業務ヲ拡張シ、進テ福利ヲ得ントスル所謂ナリ（16 期）」

それにもかかわらず、この後、武相銀行はあまり長く続かなかつたと推測されます。おそらく、八王子駅周辺には、織物商人らが自ら設立した第三十六国立銀行のほか、八王子銀行を前身とする第七十八国立銀行も営業していたことから、資金量、さらに商業金融において重要となる為替決済網の構築で両行に劣る武相銀行は、厳しい競争を強いられたものと考えられます。

【開催データ】

会 場：町田市立国際版画美術館 講堂 参加者数：27 名

ご参加ありがとうございました。

編集後記

武相銀行の経営を株主報告書から読み解いていただきました。当日のアンケートからは、銀行の歴史や経営についてより一層理解を深めていきたいという意欲や、地域の銀行の江戸時代からの変遷や人びとの思考変化に踏み込んだ分析へ期待を持ったご感想が多く寄せられました。資料群の公開・活用と研究の進展が待望される分野であることが再認識されました。（当館学芸員・川崎華菜）

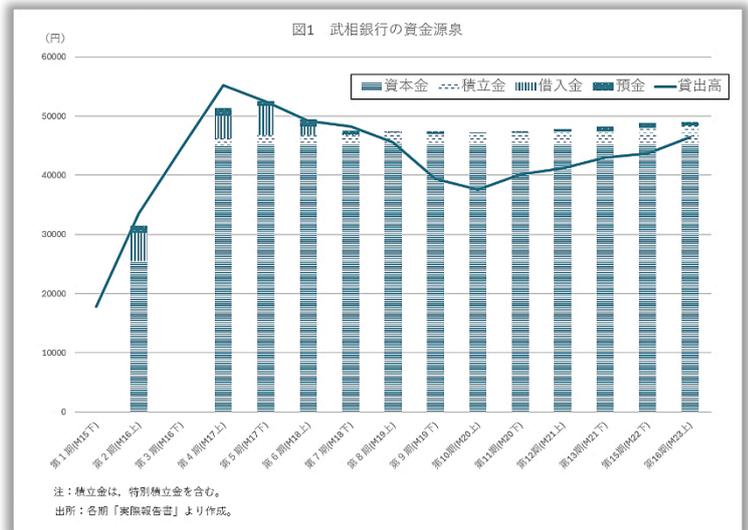


図1 武相銀行の資金源泉

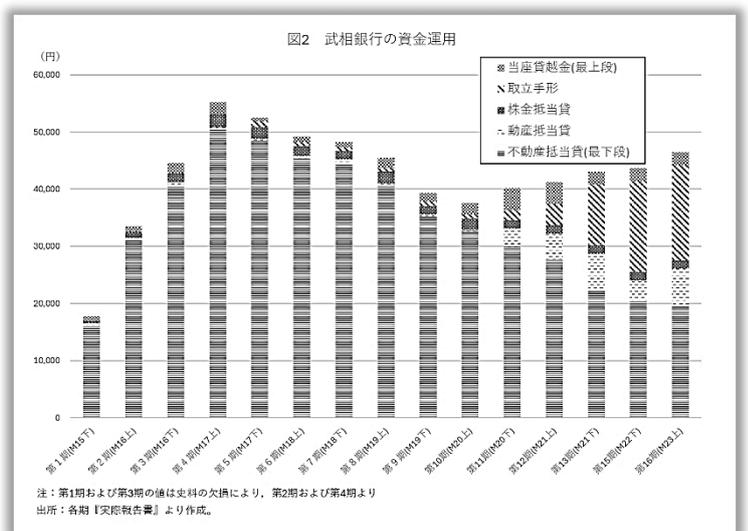


図2 武相銀行の資金運用